

奥白根山山行報告 (2,578m)

- 【山行日】 2018年12月17日(土) 雪
 【集合】 栃木総合運動公園駐車場 AM6:00
 【費用】 マイカー：2,550円、日光やしおの湯 520円(65歳未満)
 【メンバー】 CL:仙石 SL:小川、清水(敬)、飯田
 【コースタイム】

栃木運動公園駐車場 6:00＝菅沼 7:45/8:05→小休止 10:00/10:10→
 弥陀が池 0.9km道標 12:00/12:50→登山口分岐 14:20→菅沼登山口 14:45→
 駐車場(道路上) 15:10/15:30→やしおの湯 16:20/17:00＝栃木運動公園駐車場 17:55

白根山は、冬の訪れを真っ先に知らせてくれ、最近麦を作るようになった私にとっては、その種まきの時期を知らせてくれるとても有難い山です。今年は頂に雪を冠るのが早いのを見たことで、麦は少し蒔くようにとの古老の指南を受けたこともあり、山は雪が多いのではと予想して、今回は参加しました。

そして、もう4年前になりますが、八ヶ岳でメンバーに迷惑をかけた反省を踏まえ、今回は私にしては、準備を少し入念にしたつもりで出かけました。(衣類も大分新調しました)しかし、菅沼の駐車場に着いただけで、その気持ち



を破られてしまいました。駐車場一面雪で覆われ、止める場所もないのです。そして一台の駐車もいません。止める場所を探していると、これから山に登る2人連れが、約2km先(沼田方面)に路上駐車ができると教えてくれ、やっと駐車場を確保することができました。駐車場が遠方になったため、準備体操は歩きながらすることになりました。

駐車場を気持ちだけ急いでスタートします。最初の林道は、一面の雪。しかし新雪で一面に粉雪が舞い、さらさらして足に雪がつかないのも思いのほか歩きやすいのです。リーダーの判断でアイゼンは着けなくて歩き始めます。なるほど、この雪ならアイゼンはかえって着けないほうが歩き

やすいということを実感しました。後から来て私たちを追い越していくパーティーの足元を見ると皆アイゼンをつけていません。

しばらくならかな上りが続き、足慣らしにとっても良かったです。たしか夏来たときは、ここから弥陀が池まではほぼ樹林帯の中を歩き、汗もそんなにかかずに歩きやすかったことを思い出します。今回も空気が冷たくて、粉雪も舞い、汗をかかずに登れそうです。歩みも久しぶりの雪山を歩く私にペースを合わせてくれます。これなら皆さんについていけそうで、内心ほっとしました。

(弥陀が池までの登り) 絶え間なく粉雪が舞い、風も強く吹いていますが、樹林帯が風を遮っています。しかも踏み跡がしっかりあり、足元の不安がなく登れます。しかし所どころに現れる急な坂道に差し掛かると、足場



を踏み固めながらゆっくり上ることになります。それが思いのほか時間がかかりました。そうした登りを何度か繰り返すと、やっと目の前が明るくなり、もうすぐ池に着く場所になりました。やっと一息つきますが、ふと、夏はここから弥陀が池までしばらく歩くことを思い出します。雪が降り続き、踏み跡にうっすらと新雪が積り、踏み跡が消えそうです。風も段々強くなってきています。この分だと頂上まで行くのは大変だろうと皆で話をしていると、少し前に私たちを颯爽と追い抜いて行った装備も万全の若いパーティーが早くも下りてきました。しばらくして、また下山の登山者に出会いました。リーダーが、それぞれに上の事情を聴いています。雪と風でどうも大変なようです。ここでリーダーは決断しました。広場で昼食にした後、下山することに決めます。弥陀が池までもう少し、せめてそこで頂上だけでも拝みたいものだ、と一瞬よぎりましたが、ここは皆リーダーの判断に躊躇なく賛同しました。即断即決。すぐ昼食の用意をします。リーダーがお湯を沸かし、お約束のラーメン、オニギリそして紅茶をご馳走になりました。



下りはアイゼンを装着。久しぶりで着けるのに大分時間

間がかかります。待たせてはいけないと思うと、寒さで指先が凍えていることもあり焦ってなかなか装着できません。自宅で練習をして来ればよかったです。(また反省)

下りはアイゼンをつけておけば急なくだりも不安なく降りられます。ただ、ところどころ雪が積もり、場所によっては、ラッセルもどきの行程もありました。



駐車場間際に出会った2組のパーティーに頂上の様子を聞くことができました。みな、口を揃えて大変だった。胸近くまでの雪を交互にラッセルしながら頂上についたとのことであった。ほかのパーティーは皆下りてくるだろうとのことであった。それを聞いてあの時戻ることにしてよかったと改めて思いました。

2016年の流行語大賞は「神ってる」。そのつむぎ版が今回の「白根リターン」になるのでは。あの時引き返す判断がなければ、下山時には足元が暗くなり相当に苦戦したのではと思います。早々に帰ることにして良かった、と改めて

そう思いました。

今回も帰りにやしおの湯で汗を流しました。冷えて疲れた体を癒してくれました。

以上記：飯田 甚次